

アンケート集計結果(被災建築物応急危険度判定協議会)

Q1 判定の調査「2.隣接建築物・周辺地盤等及び構造躯体に関する危険度」において、筋かいの破断率はX方向、Y方向それぞれ別に考えるべきではないか。
A 可能であれば方向別に考え、被害の大きい方向の破断率で記載してください。 理由としては方向別の破断率を統一し、平均して評価することは危険側(破断率の低下)となる場合がある為です。また、その際は欄外に方向別で破断率を算定した旨を記載してください。 X方向、Y方向が判断できない(不明な)場合は統一して評価してください。
Q2 判定員登録証と判定員手帳を紛失したが、どうすればいいか。
A 再発行が可能です。 <u>書類の再発行については東京都防災ボランティア(被災建築物応急危険度判定)事務局、被災建築物応急危険度判定の制度については東京都 都市整備局 市街地建築部 建築企画課に</u> お問い合わせください。
Q3 民間判定員の参集時に防災無線は使用可能か。
A 現在のところ使用することはできません。今後、防災無線を含めた参集方法を検討してまいります。
Q4 発災した際の判定拠点での行政職員の動きや人員について教えて欲しい。
A 判定拠点の行政職員は判定コーディネーターとして判定員の支援を行います。被害状況によって拠点で活動する職員の人数は異なります。また、判定を実施することが決まった場合は、拠点にて円滑に判定ができるよう準備いたします。
Q5 被災建築物応急危険度判定マニュアルと町田市マニュアルを協議会で配布してほしい。
A 被災建築物応急危険度判定マニュアルについては配布しておりません。町田市マニュアルについてはHPIに掲載しているほか、必要に応じて今後の協議会でも配布することを検討してまいります。

■評価

【評価】

- ・実地訓練が本物の建物を使ったものだったので臨場感がありました。準備ありがとうございました。
- ・町田市の協議会は初参加でしたが、内容が充実していてよかったと思いました。
- ・3時間はあっという間で実地訓練もいい経験でした。
- ・実際の現場の写真を見れて大変学びになりました。
- ・よく考えられた研修のプログラムであると感じました。
- ・地域の顔合わせはありがたかったです。

■その他アンケート結果

【今後検討が必要なご意見・ご要望】

- ・町田市において約300名の判定員がいるとのことだったが、今回集まった判定員の人数が少なすぎる気がする。実際の地震時は余計に集まりがたくなと思うので、もっと多くの人が集まる方法を考える必要がある。
- ・堺地域の相原地区の判定員を募集していただきたい。
- ・この活動自体が一般的に認知されていないので、実際の滑動で罹災証明のための調査と勘違いされることが多いと思う。広く認知してもらえることが円滑な活動の助けになると思う。
- ・今後の対策を地域コミュニティ含めて進める必要がある。

【今後の協議会で希望する講演、内容】

応急危険度判定経験者による講演 希望者9名

防災まちづくりに関する講演 希望者3名

- ・経年劣化の見分け方等の技術的な講演。
- ・能登半島地震の詳細について。
- ・実際に判定しているビデオ等があれば見てみたい。
- ・過去に町田市での判定結果があれば知りたい。
- ・実地訓練を引き続きやりたい。
- ・判定の基準となる実地訓練をもっとやってほしい。実際に経験が無いので不安。

希望の参集方法のご回答ありがとうございます。

今後、参集方法を検討する際に参考にさせていただきます。